

1. プログラムの問題点・課題点

- ・学生の旅費・宿泊費等の支援に使える金額は原則30%までという制限は、それに抵触しないようにという配慮から、プログラムの自然な発展を抑制する効果をもつ。過度の超過は論外としても、多少の柔軟な運用を可能にしていだけないだろうか。
- ・学生支援のチケット代等の業者への支払いが帰国後精算となっているが、これは京都大学の学内ルールなのだろうか、プログラム自体の条件なのだろうか。
- ・学生の旅費・宿泊費等の支援は「その他」という経費区分になっているが、その意図はなにか？（学内の会計処理では「旅費」としてよいか）

2. グッドプラクティスの事例

- ・SEND プログラムに学生を送り出す前に、アジアの文脈に位置づけて日本について語れるように、日本研究とアジア研究を統合した体系的な研究分野の構築をめざして、学内の6研究科・2研究所・1センターが協力して、学際的ネットワーク組織である「アジア研究教育ユニット」を立ち上げた。ユニットは25年度より「京都で学ぶアジアと日本」と題する科目群の提供（全学向け、学部・大学院対象）も開始して、上記の学問的成果を学部および大学院教育に反映させる制度構築を進めている。